

# 第1章 研究概要

## 1. 研究の概要

### (1) 研究要旨

DPC 導入による診療現場への影響を評価することを目的として、患者側の満足度の観点と医療従事者の側の医療の達成度の観点からアンケート調査を実施した。調査は、DPC 病院ならびに試行的適用病院、調査協力病院で行い、医療達成度調査については医師および看護師を対象とし、患者満足度調査については調査期間の間に退院を予定する患者を対象とした。

その結果、医療の達成度についてはおおむね高い評価となっており、特に入院目的については大部分が達成できていると評価していた。一方、DPC に対する理解度は、医師の場合は比較的理解が進んでいるものの、看護師については非常に理解が低いことが明らかとなった。また、職員は少なからず DPC 導入に伴い医療内容が変化していると感じており、具体的には、入院期間の短縮や患者への説明の増加、クリティカルパスの利用の増加、コスト意識の高まりといった点が、変化していると回答していた。

また、患者満足度調査では、DPC の認知状況ならびに DPC 導入による影響の有無などもあわせて調査した。調査の結果、医師や看護師による医療サービス内容に対する満足度は総じて高く、特に患者の年代があがるほど満足度が高くなる傾向であった。

また、DPC 導入等の以前に入院経験のある患者のうち、8 割強の患者は DPC 導入後の医療内容や入院期間に変化がなかったと回答しており、DPC の導入による患者への影響はあまり大きくないことが明らかとなった。

### (2) 研究体制

	氏名	所属・役職
主任研究者	熊本 一朗	鹿児島大学病院 副病院長
研究分担者	吉田 英機	昭和大学医学部泌尿器科学 教授
	信友 浩一	九州大学大学院医療システム学 教授
	酒巻 哲夫	群馬大学医療情報部 教授

### (3) 研究目的

DPC 導入による医療効率化が臨床現場で進行するなかで、患者側からみて納得できる医療展開であったか、退院まで問題がなかったかを患者側の満足度の観点から調査する必要性が生じている。

また、納得できる質の高い医療が達成されたか、DPC 導入後の変化を医師または看護師など医療従事者の側の観点から調査する必要性が生じている。

こうしたことを背景に、本研究では DPC を導入している医療機関等の患者および職員を対象とするアンケート調査を実施することにより、患者側の患者満足度と医療従事者の医療の達成度を調査測定、評価分析し、DPC 導入の影響を評価することを目的とする。

#### (4) 研究方法

本調査では、DPCを導入している病院等において、職員および患者を対象とするアンケート調査を実施し、その結果を分析した。

調査対象施設は DPC 病院ならびに試行的適用病院、調査協力病院とし、102 施設で調査を行った。

調査対象者は、医療達成度調査については、対象施設に所属し、DPCに関連する診療科に属する医師および看護師を調査対象とした。また、患者満足度調査については、調査期間の間に退院を予定する患者を調査対象とした。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査方法

本調査では、DPCを導入している病院において、職員および患者を対象とするアンケート調査を実施し、その結果を分析した。

#### ①調査対象施設

調査対象機関は、DPC病院、試行的適用病院、調査協力病院とした。

調査対象施設数は102施設で、そのうちDPC病院が24施設、試行的適用病院が62施設、調査協力病院が16施設である。また、設置主体別では、大学病院が23施設、国立病院が10施設、社会保険病院が25施設、公的病院が7施設、民間病院が37施設である。

表 I - 1 調査対象病院一覧

	大学病院	国立病院	社会保険病院	公的病院	民間病院	計
DPC病院	23施設	1施設	—	—	—	24施設
試行的適用病院	—	8施設	25施設	1施設	28施設	62施設
調査協力病院	—	1施設	—	6施設	9施設	16施設
計	23施設	10施設	25施設	7施設	37施設	102施設

#### ②調査対象者

##### ア. 医療達成度調査

対象施設に所属し、DPCに関連する診療科に属する医師および看護師全員を調査対象とする全数調査を行った。

- ・配布数 39,365
- ・回収数 29,173
- ・回収率 74.1%

##### イ. 患者満足度調査

調査期間の間に退院を予定する患者を調査対象とし、標本数は各施設最大500人とした。

- ・配布数 35,968
- ・回収数 22,641
- ・回収率 62.9%

### ③調査内容

#### ア. 医療達成度調査

- ・ DPC に対する理解度
- ・ 医療の達成度に対する評価
- ・ DPC の導入の医療内容への影響

#### イ. 患者満足度調査

- ・ 医療内容への満足度
- ・ DPC に対する認知度
- ・ DPC の導入の医療内容への影響

### (2) 調査データの分析

#### ア. 医療達成度調査

調査結果については、全体の傾向を分析するとともに、医師、看護師の別による分析を行った。また、医師および看護師のそれぞれについて、年代別、種別（DPC の導入状況）、設置主体別、地域別、診療科別による違いを分析した。さらに、DPC の理解度と医療達成度の関係などについて、質問間でのクロス分析を行った。

分析方法は  $\chi$  自乗検定を用いた。

分割表分析係数により相関の強さを判定するとともに（分割表分析係数が大きいほど相関が強い）、分割表分析係数が大きい項目については危険率 5% で検定した。（ $P < 0.05$  で有意。）

#### イ. 患者満足度調査

調査結果については、全体の傾向を分析するとともに、性別、年代別、種別（DPC の導入状況）、設置主体別、地域別による違いを分析した。また、退院後の予定と満足度の関係について、質問間でのクロス分析を行った。

分析方法は  $\chi$  自乗検定を用いた。

分割表分析係数により相関の強さを判定するとともに（分割表分析係数が大きいほど相関が強い）、分割表分析係数が大きい項目については危険率 5% で検定した。（ $P < 0.05$  で有意。）

### 3. 調査結果の概要および今後の活用

#### 3-1. 調査結果の概要

##### (1) 医療達成度調査

医療達成度調査では、DPC についての理解度および DPC 導入による医療内容等への影響の有無を調査するとともに、医療の達成度を調査した。

調査の結果、DPC についての理解度は、診断群分類、包括の範囲ともに、理解している医師は半数程度であった。また、看護師においては 1 割程度であった。その中で、年代があがるほど DPC に対する理解度も高くなるという傾向が見られた。

また、約 2 割の職員が DPC 導入後に医療内容が変化していると回答しているが、DPC に対する理解度が高いほどその回答割合は高くなっており、DPC に対する理解が医療内容に影響を与えていることがうかがわれる。具体的には、入院期間の短縮、患者への説明の増加、クリティカルパスの利用の増加、コスト意識の高まりといった点に、変化を感じている。

一方、医療の達成度については、入院前、入院中、退院時の各段階における医療サービスの提供についてはおおむね高い評価となっている。特に、入院目的については大部分が達成できていると評価している。ここでも、年代があがるほど評価も高くなる傾向がみられた。反面、入院診療費用の事前説明は十分に行われていないという点も明らかとなった。

こうした中で、DPC に対する理解度と医療の達成度に対する評価の関係をみると、両者の間には明らかな相関がみられた。大部分の医療サービスにおいて、DPC に対する理解度が高い職員ほど医療の達成度に対する評価が高くなっており、DPC に対する理解が医療の達成度に好影響を与えていることが明らかとなった。

なお、DPC についての理解度、医療達成度ともに、年代や職制（医師と看護師）による回答傾向には大きな差が見られ、また、診療科別（内科系、外科系、その他）によって回答傾向に差がみられた。一方で、医療機関の地域別や種別（DPC の導入状況）、設置主体別では大きな差はみられなかった。

##### (2) 患者満足度調査

患者満足度調査では、退院時における医療内容等に対する満足度を調査するとともに、DPC の認知状況ならびに DPC 導入による影響の有無などを調査した。

調査の結果、医師や看護師による医療サービス内容に対する満足度は総じて高く、特に患者の年代があがるほど満足度が高くなる傾向にあることが明らかとなった。また、DPC の導入により入院医療費算定方法が変わったことを認識している患者は全体の約 3 分の 1 と少数であった。これらの点については、患者の属性による差はあまり見られなかった。

一方、DPC 導入等に伴う医療内容等の変化については、変化したと感じている患者は 2 割弱であり、多くの患者は医療内容に変化がなかったと回答していた。ただ、この点については、中高年を中心に変化を感じている患者が多く、また調査協力病院の患者が

変化を感じている割合が高い、という回答結果となっており、患者の年齢や医療機関の DPC の導入状況や設置主体によって、意識の違いがあることがわかった。

本調査の結果からは、DPC に対する患者の理解と認知を進めることが今後の課題として浮き彫りとなったが、患者の多くは DPC の導入後も医療内容には高い満足度を示しており、DPC の導入による医療サービスの低下は認められていないことが明らかとなった。

### 3-2. 研究により得られた成果の今後の活用・提供

DPC 導入による医療効率化が臨床現場では進行するなかで、患者側からみて納得できる医療展開であったか、退院まで問題がなかったかを患者側の満足度の観点から調査する必要性が生じている。また、納得できる質の高い医療が達成されたか、DPC 導入後の変化を医師または看護師など医療従事者の側の観点から調査する必要性が生じており、本研究事業を開始した。具体的には無記名のアンケート調査を実施し、患者側の患者満足度と医療従事者の医療の達成度を調査測定、評価分析を行い DPC 導入の影響を評価した。

この DPC 導入の影響評価のための調査研究により得られた医療達成度調査と患者満足度調査のそれぞれの結果は、中央社会保険医療協議会の基本問題小委員会の付託を受けた診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会において報告し、公表する予定である。